



No. 22  
2008 Winter

山 松 舎  
寺 南 臨

自らと法を  
ともし火として生きよ

自らの死を予告したお釈迦様は、さ  
らに北に向かいます。途中お釈迦様は  
います。

「阿難よ、自らをよりどころとし、  
他人に頼らずにいなさい。法をよりど  
ころとし、それ以外のものに頼っては  
いけません。そうすれば、誰でも、私  
が減んだあとも、悟りを開くことが  
できます」

これが「自灯明・法灯明」の教えと  
いわれるものです。自分自身をともし  
火とし、仏法をともし火として生きな  
さいという教えです。

「法」とともに「自」ということも  
説かれました。これは自己に忠実であ  
れという意味ですが、その一方でお釈  
迦様は「無我」を説かれています。自  
己に執着することなく、自己に忠実に  
生きよ。お釈迦様の教えは深遠です。  
次回、いよいよお釈迦様は涅槃に入  
られます。

特集

# お釈迦様がたり

## いよいよ最後の旅へ

15



八十歳になられたお釈迦様は、説教の拠点であった靈鷲山を下りて、北に向かつて旅に出られました。これが最後の旅になりました。

お釈迦様の最後の旅には、多くの弟子が従ったと思われませんが、アーナンダ（阿難）の名前だけが繰り返し出てきます。阿難はシヤカ族の出身で、お釈迦様のいここにあたります。二十五年間もお釈迦様のそばにいながら、お釈迦様の生存中は悟りを開くことができませんでした。

この最後の旅で、お釈迦様は繰り返し阿難の名前を呼び、最後の教えを説かれます。それは悟りに至っていない

阿難を通して、私たちに語りかけられているのです。

### 悪魔のまごやき

マガダ国の王舎城に立ち寄り、ガンジス川を渡り、商業都市ヴェーサーリに入られます。ここで、マンゴー園に滞在されます。このマンゴー園を所有していたのが、高級遊女のアンバパーリでした。遊女とはいえ、非常に裕福で教養もあったといわれます。

アンバパーリの供養を受けられたお釈迦様は、近くの村で三か月、夏安居を過ごされました。安居とは、雨季の間一つの場所で修行することで、今も

禅宗で受け継がれています。

夏安居が終わり、再びヴェーサーリに帰ってきたお釈迦様。精舎に起居し、樹下に座して瞑想にふけておられました。そこに悪魔がやってきて、涅槃に入ることを勧めます。お釈迦様は答えられません。

「私の入滅はそう遠いことではない。三か月のちに私は涅槃に入るだろう」  
そして自ら寿命を放棄されました。そのとき、大地は大鳴動を起こしたといえます。

お釈迦様は弟子たちを集めて宣言されました。  
「私は三か月後に涅槃に入るため、残りの寿命を捨てた」  
その言葉を聞いた阿難は、悲しみのあまり号泣しました。お釈迦様はたしなめます。

「阿難よ、命あるものは必ず滅びる。人は必ず別れなければならない。いつまでも私に頼ってはいけない。私は、何も隠さず教えを説いてきたのだから」



# マトリ合同法要 落語も聞きました

十一月十一日（日）午後一時から、がつし  
よう園マトリの合同法要が営まれました。

晋山結制記念の五色の幔幕が美しい本堂で、  
今回は法話ではなく落語です。TV『笑点』  
でおなじみの円楽一門の落語家・三遊亭貴楽  
師匠が登場すると、合掌ならぬ拍手でお出迎  
え。坊主頭、その上駒澤大学ラグビー部監督  
という異色の師匠にふさわしい舞台です。

酔っ払い百態をマクラに「禁酒番屋」の一  
席。一時間たつぷりの「高座」でした。「お  
もろかったな」「もう一度聞きたいわね」「臨  
南寺にきたら勉強になるな」参加した方の評  
判も上々でした。

落語を楽しんだあとは、マトリに移り、読  
経がしめやかに続くなかで、それぞれのご霊  
牌にむかって手を合わせました。

年を重ねるごとに、マトリに入会する方が  
増えております。合同法要への参加者も増え、  
今回は二百五十人を超えました。

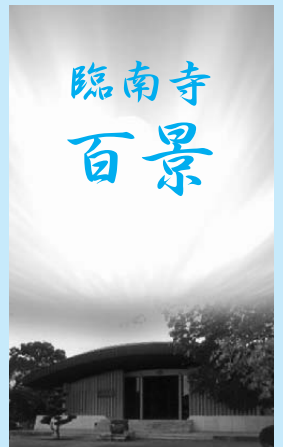


清らかな円形の堂内に読経が続きました（マトリ）



落語「禁酒番屋」を熱演する三遊亭貴楽師匠（本堂）

## 寺南景 百景



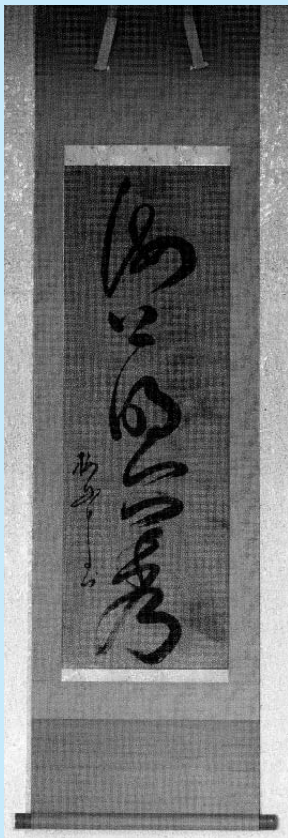
### 梅峰竺信の 書の掛け軸

梅峰竺信禅師は、臨南寺の中興  
二世と呼ばれています。萬安英種  
禅師のあとを継いで住職となり、  
臨南寺の発展に尽くしました。

梅峰竺信禅師は、寛永十年（一  
六三三）大阪に生まれました。幼  
いときから天才ぶりを発揮、三歳  
で漢文を読みこなして周囲の大人  
を驚かせたといいます。十一歳で  
出家し、奈良で勉強したあと、宇  
治の興聖寺で萬安英種禅師につい

て修行しました。寛文六年（一六  
六六）に總持寺に出世。名声が高  
まりました。  
延宝四年（一六七六）に淀の太  
守の永井氏に懇請され、興聖寺八  
世に就任。貞享元年（一六八四）  
臨南寺の住職となりました。その  
年、水戸光圀に招かれ、三年間耕  
山寺に住みましたが、病気になる  
臨南寺に帰りました。

元禄十三年（一七〇〇）から曹  
洞宗の改革に取り組みました。三  
年後幕府を動かし、改革を実現。  
宝永四年（一七〇七）十一月、七  
十四年の生涯を終えました。



# 晋山結制法要が、五十七年ぶりに 臨南寺で営まれました



須味壇の上ですくと立つ大澤新住職。大和尚の力量を測るための禅問答に臨みます。



五盃三拝される大本山總持寺元監院の江川辰三大老師。



安下所から、ほら貝を吹き鳴らし、のぼりを立て、臨南寺山門へ向かう行列。美しく着飾った稚児たちも従っています。



稚児練り供養を終えた稚児たちは、老師様から灌頂酒水かんちやうしゆすいを受けます。

平成十九年（二〇〇七）十一月二日、三日の二日にわたり、晋山結制法要が臨南寺で営まれました。法要には大本山總持寺元監院江川辰三大老師をはじめ、全国から百五十名のご寺院様にご参列いただきました。これは、先代の渡邊剛毅方丈が住職に就任されたとき以来の大法要で、五十七年ぶりに催されたこととなります。

## 晋山式しんざんしき

晋山式は、住職がお寺に入るために行う儀式です。曹洞宗では、管長様から住職任命の辞令を受けると、その披露目の儀式として晋山式をつとめます。

## ● 晋山開堂

「堂を開く」とは、仏法を説き示す道場をつくることです。

新住職が須味壇しゅみだんにのぼり、法語を唱え、問答を行います。

## ● 問答

問答とは、禅の修行に関する質疑応答で、結制修行へのお祝いとして行われます。問答を始める役の白槌師びやくつゐしは、問答の修了にあたり、住職の説法が大和尚として立派であることを大音声で証明します。

## 結制式けつせいしき

結制とは、お釈迦様が定められた制度に従い、大勢の修行僧が一か所に集まることです。

## ● 首座入寺式しゆざにゅうじしき

結制修行中には、修行僧の先頭に立つ「首座」という



晋山式を修了し、名実ともに臨南寺二十三世となった大澤新方丈。朱の衣を許され、大和尚と呼ばれることになりました。



問答を終え、「吉祥、吉祥、大吉祥!」と大音声を本堂に響かせる小さなお坊さん。



大澤新住職から竹籠を授かり、首座法戦式に臨む首座。



大般若経六百巻を転読して、晋山結制法要を締めくくりました。

役が置かれます。曹洞宗では、僧侶になるために、誰でも一度はこの役をつとめなければなりません。

### ● 首座法戦式

首座が住職に代わり、禅の修行や悟りについて問答を交わす儀式です。

### 御礼

先般、十一月三日に修行いたしました陳者拙寺儀、晋山結制法要に際しましては、檀家総代・護寺会役員・檀信徒・関係者の皆様のご支援・ご協力を賜り、無事圓成させていただくことができました。

当日は、晴天に恵まれ、全国各地より約百五十名のご寺院様、三百名を超える檀信徒・関係者の皆様が、式典にご臨席いただきました。また、稚児行列では、約三十名のお稚児さんが華を添えていただきました。

この大法要を終えた今、由緒ある臨南寺の歴史と法灯を守る重責を痛感しております。

今後は、前住職・渡邊剛毅方丈の遺志を受け継ぎ、決意を新たに山門護持・寺門興隆に精進していく所存でございます。

今後ともご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。御礼に代えさせていただきます。

平成十九年十二月

含松山 臨南寺住職 大澤正道 合掌

## 弁財天祈禱会 一月十五日(火)に開催

臨南寺では、一月十五日(火)、弁財天様をお祀りし、『大般若波羅蜜多經』六百卷の五七八「般若理趣分」を転読いたします。

『大般若波羅蜜多經』は、大乘經典の初期に成立した經典です。呪術的な要素を持つ『大般若波羅蜜多經』は古来より大きな靈力を持つと信じられてきました。ばらばらと転読するだけで、『大般若波羅蜜多經』を讀誦したと同じ功德が得られるといわれています。

わが国が安らかで穏やかでありますよう、また世界に平和が訪れますよう、そしてすべてのことがめでたく幸せでありますよう——檀信徒の皆様や参詣者の方々の無病息災、家門隆盛、家内安全を祈願し、お札をいただく法要を行います。

弁財天様は、七福神の一人で、言語、知識、音楽をつかさどり、福德・財宝を授ける神様です。古くから学問、文芸、芸能の守護神として信仰されてきました。旧い年に感謝をささげ、新しい年の幸せを祈るために、ご家族、お友達、お誘い合わせの上で参加ください。



## 臨南寺行事予定 (一~三月)

### □ 弁財天祈禱会(本堂)

一月十五日(火)  
午前十時~十二時  
皆様の厄を払い、福を招く法要を行います。温かい甘酒の振る舞いもございます。誘い合わせでお参りください。

### □ 彼岸会写経会

三月二十日(祝)  
午前十時~午後四時  
寺務所にて受け付けております。お気軽にお申し付けください。費用千円。

### □ 春季彼岸会施食会(本堂)

三月二十三日(日)  
午後二時~三時 受付は二時半まで  
お彼岸は大自然とご先祖様に感謝する大事な時です。家族そろってお墓に参り、ご先祖様を偲び、自分が今あることに感謝いたしましょう。

\*一月一日~三日は、寺務所は閉めさせていただきます。

線香、ろうそく、花等は、本堂前で販売しております。

\*一月の早朝座禅会はお休みです。毎月第一土曜日に行っており、一月は必ず早朝座禅会は、一月はお休みさせていただきます。

## 『正法眼蔵随聞記』の読書会

いよいよ来春四月から始まります

曹洞宗の開祖・道元禪師に、影のようにそばで仕えた懷辨禪師が、折に触れて聞いた師の教えを書き留めたものが、『正法眼蔵随聞記』です。その『随聞記』を読みやすく今の言葉に訳した文庫本を、皆さんと一緒に読んでいきたいと思えます。この『随聞記』は、道元思想への最良の入門書とも言われております。

一人ではなかなか読み通すことはできませんが、お仲間とご一緒なら、引つ張り引つ張られてきつとたどり着けるに違いありません。お気軽にご参加ください。

● 日時 四月十二日(土) 午後三時~四時

以後毎月第二土曜日

\*なお、『正法眼蔵随聞記』(水野弥穂子訳・ちくま学芸文庫・1260円)は、当山にて一括で取り寄せてお分けいたします。ご参加の方は、三月十五日までに申し込みください。



# 手を合わせる日々



田中里美

六月より臨南寺で勤めさせていただいております。子どもが小さかったころ、長居公園へ何度か遊びに来たことがありましたが、街中にこんな大きなお寺があるとは、まったく気がつきませんでした。

お寺では、毎朝、経本を見ながら、お経を読んでいます。わが家には仏壇がなく、お経を唱える習慣もありませんでしたから、初めはただお寺様に合わせて般若心経を読み上げることだけで精一杯でした。でも最近、少しお経も覚え、気持ちを含めて唱えています。

これまで淡々と日々の生活を過ごしてきた私にとって、

ご先祖様を思いやることまでは気が回りませんでした。しかし、お寺様のお話を聞いた、毎日手を合わせていると、今ある自分や家族が、両親やご先祖様あってこそのものだと感じるようになりました。

このような気持ちに気づかせていただけたこと、そしてこちらで勤めさせていただけに、感謝し、これから気持ちを含めて手を合わせるしていきたいと思えます。

お寺での仕事はまだわからないことばかり。いろいろな迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが、寺務所の方々に教わりながら努めていきたいと思えますので、どうぞよろしくお願ひします。

## AEDを設置いたしました

AEDとは自動体外式除細動器のことです。心臓がけいれんを起こし、血液を流すポンプ機能を失うことがありますが、そんなとき、心臓に電気ショックを与え、正常なリズムを取り戻すための医療機器です。

2004年7月から医療従事者ではない一般市民でも使用できるようになりました。AEDは、操作方法を音声ガイドしてくれ、簡単に使用することができます。また、心臓の動きを自動解析し、必要な方のみ電気ショックを流す仕組みになっています。

寺務所カウンターに置いてありますので、万二のときにお役立てください。



## 墓苑をご利用の皆様へ

## お願い

- 手桶を花立て代わりに使わないでください。お正月は手桶が不足しがちですから、ご使用後は必ず元の場所へお戻しください。
- お墓参り以外での駐車はご遠慮ください。境内では最徐行をお願いいたします。駐車中の事故等は一切責任を負いかねます。
- ペットを墓苑内に連れて行かないでください。
- トイレにオムツを流さないでください。
- お供物は、カラスなどに荒らされる原因となりますので、各自お持ち帰りください。

## お気軽にどうぞ

### 早朝坐禅会

毎月第一土曜日 午前六時半～  
※一月・八月は、お休みさせていただきます。

### 写経会

毎月二十日 午前十時～午後四時  
写経料・千円

※いずれも事前のお申し込みが必要です。

## 編集後記

いよいよ、来春から『正法眼蔵随聞記』の読書会を開くことになりました。道元禅師のお言葉に接するまたとないチャンスです。お坊様も出席されると思います。皆さんもお気軽にご参加ください。今号は盛りだくさんの内容になりました。ご感想をお寄せください。(M)

「ほ〜っと」22号

平成19年12月

編集・発行：稜伽林「ほ〜っと」  
編集室

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-32

☎ 0120-711-493

TEL 06-6698-1001

FAX 06-6697-3330

Eメール：rinnanji@abeam.ocn.ne.jp

ホームページ：http://www.rinnanji.com